(冷静に)

「ねえ、ひとつ聞いていい？」
「確かに私はあなたの言うことを聞くって言ったし、あなたに言われたことはちゃんとやるわ」

(冷静さを失って)

「でも…拘束するなんて聞いてないんだけど！？」
「椅子に座らせて腕と足を拘束するなんてド変態すぎる！！そもそもなんで結束バンドなんて持ってるのよ！！」
「んん～…！！これ本当に動けないんだけど！！」

(暴れることを諦めて)

「はぁこれ以上暴れても疲れるだけだし、もう抵抗しないわ…どうせ暴れてもあなた

がこれを外してくれるわけじゃないんだし…」

(呆れながら)

「それで、こんなことしてどうするの?普段のストレスを発散させるために殴ったりなんかしないでよ?」

「またスマホ出して…あなたがガジェット系の人っていうことは知ってたけど、こんなことをするなんて悪趣味…まさか普段から盗撮なんてしてないでしょうね?」

(怪訝そうに)

「また動画撮影するの?どこまでも変態なのね…」

(ビックリして)

「ひゃあ!?きゅ、急に脚持たないでよ!」

「そ、そんなに上げたらスカートの中見えちゃうから！」

(足を舐められてビクッとしながら)

「ひゃん…！ま、また、舐めるのぉ…！？」

「んんっ！やぁ…んっ…あぁ…」

「さ、さっきあんなに舐めたんだからっ…あれで満足しなさいよぉ…うぅぅ…」

(気持ちよくなりながら)

「あぁっ…またっ、指の間っ…やだやだ…体、反応しちゃうぅ…」

(声を荒らげて)

「ひゃっ…ば、バカ…！何そんなところ勃たせてるのよ！！変態…！へんったい！！」

(舐められるとすぐにビクッとして)

「あぁぁ…！！だめっ！舐めるの…激しいっ…！」

「あっ…んっ…やだっ…！だめぇ…きもちぃ…」

(我に返り焦りながら)

「へ…？え！？ちがっ…気持ちいいなんて思ってないから…！そんなこと言ってないから…！！」

(徐々に声が小さくなり)

「い、言ってない…から…そんな見つめないで…」

(不安そうに)

「え…？なんで私の襟なんか持って…」

(服を脱がされ叫ぶように)

「っ…！！きゃぁぁぁ！！！」

(声を荒らげて)

「バカバカ！！何服脱がせてるのよ！！」

(徐々に声が小さくなり)

「気持ちいい場所の確認とか…何考えてるのよ！そもそも、気持ちよくなんか…なかったし…」

(声を荒らげて)

「そ、そんなにジロジロ見るな、変態！あと撮るな！」
「し、下着の柄なんかどうだっていいでしょ！」
(目を逸らしながら)
「べ、別に…こういうのが好きってわけじゃ…」
(体を反応させながら)
「んんっ…体撫でないで…ゾワゾワするぅ…」
(声を荒らげて)
「あっ…！バカ！胸に手当たってる！」
(ビクッとして)

「んっ…また当たってるっ…」
「ひゃっ…それ当たってるんじゃなくて…触ってる、じゃないっ…」

(気持ちよくなりながら)

「あっ…んんっ…そこ、だめぇ…」
「ひゃぁぁ…！胸の側面、すっごいゾワゾワするぅぅ…」
「ひぃぃ、爪で撫でないでぇ…んんっ…あっ…」
「上下に動かすなぁぁ…！！ひゃぁっ…あんっ…」

(疲れたように)

「はぁ、はぁ…も、もういいでしょ…？あなたの変態すぎる性癖にここまで付き合ってあげたのよ…もうこれ外してよ…」

(不安そうに)

「ちょ、ちょっと…？縛られてる脚は前だし、腕は横なのよ…？後ろには何も無いわよ…？」

(拘束を外そうとするが無力で)

「んんーっ…！はぁ…腕が拘束されてるせいで後ろが見えないわ…何やってるのか全然見えないんですけど？気配だけ感じるの怖いし。早く全部外してくれない？」

(普通に話していると急にビクッとして)

「全く…これで急に変なことしてきたら承知しないんだかりゃっ…！？」

(とろけるように)

「ふぁぁ…み、耳ぃ…いじるなぁ…あぁ…やっ…んんんっ…！」

「せ、性感帯なんかじゃ…っ…ない、しっ…！」
「んんっ…耳たぶやだぁ…」

(焦るように)

「え、何、なんで耳に顔近づけてるの…？え、ちょっ…ま、待って…それだけは…」

(またもとろけるように)

「…っ！？ひゃぁぁっ…！！」
「ば、バカぁ…しょんなことぉ…しゅるなぁ…」
「息、かけるの、反則ぅ…」
「ぞわぞわ、して…くしゅぐったい…」
「あっ、んっ…あぁっ…ダメ…あんっ…んぁ…」

(疲れたように)

「はぁ、はぁ…疲れた…耳がかゆい…」

(焦りながら)

「か、かかなくていいわよ…！」

(疲れながらも呆れたように)

「もう、こんなことして何が楽しいのよ…」

「ちょっと、まだ何かやる気なの…？もういいでしょ…？」

(恥ずかしそうに)

「っ…ジロジロ見るな、バカ…」

(不安そうに)

「ちょっと…何よその手…やめっ、近づけないでっ…！」

(気持ちよくなりながら)

「ひゃぁっ…！あっ…んんっ…っ…」
「ちょっと…胸…触らないでよっ…あんっ…」
「ち、小さくないわよっ…！んっ…他のみんなが…発達しすぎなのよっ…！あっ…やぁっ…」
「ちょっ、だめっ…撫でるなぁ…あぁっ…やらっ…」
「ひゃぁ…揉むのも、らめぇ…んっ、やぁっ…」
「あんっ…ひゃっ、ばかばかっ…だめだってぇ…」
「か、感じてないっ…感じてないからっ…もう、やめなさいよっ…」
「や、ちがっ…勃ってないっ、から…」

(声を荒らげながらも気持ちよさそうに)

「ど、どこがって…そんなこと言わせないでよ、変態！」

(とろけるように)

「あぁんっ…らめぇ…やっ、やらぁ…揉まないでぇ…」
「んんっ…嫌だぁ…言わないぃ…」
「言ったら、楽になるって…んっ！意地悪ぅ…」
「やぁぁっ…！しょこっ、指でっ…くりくりしゅるのっ…！らめっ…！無理ぃ…」

(ビクビクして必死に)

「だ、だからぁっ！乳首っ…！乳首無理ぃっ！」
「た、勃ってますっ…！勃ってますからぁっ…！も、らめぇ！」
「み、認める、認めるからっ…ストップ、ストップぅっ！」

(疲れて)

「はっ…はっ…けほっ…っ…はぁ…はぁ…」
「の、飲み物…飲み物取って…私の…バッグの中に…あるから…」
「いや…自分で飲むから…これ外しなさいよ…」
「はぁぁ…全くもう…」

(飲み物を飲んで)

「んっ…んっ…っはぁ…！はぁ…はぁ…」

(疲れたように)
「このド変態…覚えてなさいよ…」
「動画、消さなかったら…殴る…」
「もう、いいでしょ…体、いじって…恥ずかしいこと、言わせて…満足したでしょ…早

く、これ、外しなさい…」

(キョトンとして)

「え…勃ってるの認めなかった、お仕置き…?」